

補助金を利用して魅力あるまちづくり

市民協働によるまちづくり事業補助金&事業報告会 一概要一

- 日 時 平成22年5月28日(金) 午後7時～9時
- 場 所 沼田市市民活動センター 4階ホール
- 参加者 35名 

参加者	22名
審査委員	8名
スタッフ	5名

1. 市長あいさつ
2. 市民協働によるまちづくり事業補助金制度の説明  
市民活動センター 鈴木チーフ ～パワーポイントによる説明～
3. 事業報告

事業報告概要

(1) 六斎市

発表者 中島 庸一 氏

六斎市とは日にちを決めて開く定期市のことであり、真田の時代、本町通の上之町・中町・下之町の3町がそれぞれ月に2日ずつ合計6回の市を開いたことが始まりである。江戸中期頃には一年中営業する商店街へと変わっていった。

現在、街づくりの途上にあって空き地が多くなってしまった中心市街地の、かつてのにぎわい・街の顔の再生を考える中で、今までの街づくりと違う視点から、多くの市民の皆様に参加していただき新たな交流の場として始めたのが「六斎市」である。

六斎市が、毎回楽しみにしてくださる方達にとって少しでも役に立ち、また新しいつながりが生まれ新しい街づくりとなって行くことと思う。今後は、参加していただく方々をもっと増やしていきたい。物を売る・イベントのお手伝いなど、いろいろな参加の方法があるので、ぜひ、多くの皆様に参加していただきたい。

写真の説明



須賀神社の境内で六斎市を開いたときの様子



本業看板屋さんのアイスクリーム販売と「星の絆」プロジェクトのPRコーナー



近隣農家の野菜の提供・街づくり応援隊の販売の様子



六斎市附属イベント「まちなか探訪」で訪問した菊屋紙店さん



「みんなで歌おう 歌声広場」



報告会の様子

## (2) おらが町おらが家の防災マップ作り

発表者 郷土沼田を守る会 小坂 <sup>かずひら</sup>一平 氏

小さな街の防災計画を事業の目的とし、上沼須町・沼須町を対象とした防災マップを作成した。街の住宅の確認として、個人情報にひっかかる要素であることはわかっていたが、世帯主をマップに記載した。災害発生時における被害の拡大防止として、防火水槽・消火栓・水道本管仕切弁の位置を改めて確認し、マップに記載した。また、災害時の避難場所を沼田市の防災マップで確認し、さらに追加した方が良いと思われる所を加えた。ほかに、子ども110番として、通学路の確認、監視などをやり、地域で子ども達を守る連帯感ができた。

今後も各地区長さんや小・中学校の協力を得ながらやっていきたい。また、地域住民の防災意識を高め、要介護者が被災しないための組織作り、二次災害の最小化、沼田市全域に防災マップを展開していくことを将来の展望としている。



報告会の様子

## 4. 講評

審査委員長 宮崎 嘉久 氏

「六斎市」と「おらが町おらが家の防災マップ作り」は、今の時代的背景での一つの問題点を追求した事業だと思う。日本は、戦後の高度経済成長で発展し社会が大きく変化する中で、コミュニケーション・人間関係がとても薄れてきた。また超高齢化社会になり公共交通機関が集中するような街が必要になったり、小さくまとまった街づくりが見直されてきている。

六斎市はコミュニティ・人間関係を結ぶ街づくり、ひとつのきっかけとして街の出発点になるのではないかと。また、街の発展の中心になるのではないかと。

防災マップについて。今後、超高齢化社会になり認知症や一人暮らしの増える社会にあっては地域の方たちが助け合わなければならない。個人情報保護法は必要なことではあるが、比べれば、命のほうが大切である。その対応を考えてやる防災マップというのが非常に良い。災害はいつでも起こる。このマップが地域全部に広がっていけ

ば良いと思う。



宮崎審査委員長による講評

## 5. 交流会まとめ

参加者の方に5グループ（4～5人）に分かれてもらい、スタッフ5名が進行役としてそれぞれのテーブルにつき、統一した項目に沿って話し合いを進めた。

### 1. 自己紹介

### 2. 意見交換

#### ① 事業報告について

##### ○「六斎市」

- ・白沢町からも出店してもらって、しいたけのつめ放題が大変よく売れた。商店にとっても売り方の勉強につながっている。
- ・市で野菜の持ち帰りをサポートしたところお年寄りの方に大変喜んでもらったので、協力体制がしっかりできればまたやりたい。
- ・スーパーのポイントカードのようなものを作ったらもっと注目するのではないかな。
- ・活性化のための姿勢としては良いと思う。
- ・やるのが大変なのはわかるが、近在に良い直売所があるので、まちなかでやるには、研究が足りないのではないかな。
- ・六斎市とは何かよくわからなかった。実際見に行こうと思ったが、駐車場はあるのかといったことが心配になった。

##### ○「おらが町おらが家の防災マップ」

- ・今回は、完成までに何度かやり直しをしたので経費が増大したが、次に作る場合はノウハウの蓄積があるので安くできる。
- ・名前を載せる確認をすることが大変だった。
- ・災害時に使えるような、清水のわき出る場所や、指定避難場所以外で避難可能な場所なども地図に記載した。
- ・区ごとに色分けしたり、地図を大きくして見やすく作った。
- ・住民に理解してもらえれば早く進む。活動をあちこちに広げていきたい。
- ・町の人たちが中心になって、自分たちで作ろうという気持ちが必要。
- ・ネットワークを作るなどソフト面でのしくみ作りが必要。
- ・地域に防災組織があるので、マップが話し合いのきっかけになる。
- ・市に地図の良いデータがあると思うので、それを基にして加工できれば、もっと

良いと思う。また、警察の詳細な地図データも含めて基データを統一してやるのも良いと思う。

## ② 補助金について

### ○ 対象経費

- ・ガソリン代などは対象にしてほしい。県は積算の根拠があれば対象となる。
- ・昼食代などは対象経費でなくて当然だと思う。一口に昼食代と言っても、金額がいろいろ出て、きりがなくなる。
- ・補助金支給が決定する前から準備を始めないと間に合わない事業もあるが、領収書の日付と補助金の許可の日付がずれても対象経費に認めてもらえるのか。

### ○ 補助率

- ・対象経費で絞っているのでは、100%でなくても、90%とかにしてほしい。
- ・15万円でできる事業をという募集の方法はどうか。
- ・目標は「沼田の活性化、元気にする」ということだと思うが、事業をやった効果があるのか、もらう金額に値するのか判断がむずかしい面がある。
- ・小さい事業、大きい事業、やる事業によっても効果が違う。補助率を一律にしないで、事業の申請額をものさしにして率を決める方法もあるのではないか。
- ・補助金がいただければうれしい。補助率のことまではあまり考えない。
- ・お金のない団体は手を挙げられない。

### ○ その他

- ・みなかみ町でやっているような、確定した補助金が支給されるまでの間のつなぎ融資を検討してもらいたい。補助金の支給が決定したら、その額を貸してもらい、交付後、1週間以内に返却してもらう仕組み。
- ・補助金の募集時期を早めてほしい。4月からの事業の組み立てができるようにしてほしい。
- ・事業報告会を早くしてほしい。聞いてから申請したいと思ったが、締め切りが近すぎる。
- ・申請する手続きを簡素化してほしい。企画書・報告書などの作成が面倒というのが本音。
- ・書類はむずかしくなく、利用しやすかった。
- ・補助制度を知らない人もいると思う。
- ・補助金も税金から賄われているので、利用する人も有効に使うことが必要。
- ・小さな事業でも、やりたいという意欲を大切に補助してほしい。

## ③ 自由意見

- ・ぬまたん家で、音響・テントなどを置いて、貸し出しをしてほしい。
- ・グリーンベル21にぬまたん家をおいて、会議室を確保してほしい。現在のぬまたん家で打ち合わせスペースと称しているところは使いにくい。
- ・印刷が安くできるのは助かる。
- ・お年寄りと子どもが集まれる機会・場所があると良い。

